

記憶をたどり、伝える平和への想い

今から76年前、この小さな島国沖縄で住民を巻き込んだ激しい戦いが繰り広げられました。1945年3月、米軍の慶良間諸島への上陸を始まりに、太平洋戦争で唯一地上戦の地となった沖縄。約90日間にも及ぶ戦いにより町は焦土化し、多くの尊い命が奪われました。今回の特集では、戦争体験者から当時の話を聞き、改めて戦争の恐ろしさ、そして平和の尊さを伝えるとともに、市内に建立された慰霊碑を紹介します。



※この2枚の写真は、天久付近から泊高橋向けに見た戦争当時と現在の那覇の様子。左の写真は、那覇市歴史博物館提供。



Vol.5

第5回目となる今回の対談相手は、市内でおまんじゅう屋を営むペーチン屋の新城佑子さんです。

城間市長 ペーチン屋のてんぴぬめーまんじゅう、私も子ども頃によくおやつで食べていました。ひいおばあさんがお店を始められたそうですね。

新城さん 天妃宮(てんびぐう)前で販売していたおまんじゅうが「てんぴぬめーまんじゅう」と呼ばれていて、ペーチン屋は、曾祖母の金城ウシが初代です。当時はいくつかあったお店の一つが、曾祖母のお店になります。

城間市長 どのような方法で、100年近く味を守り続けてきたのでしょうか。

新城さん うちのおまんじゅうは、冷めても硬くならないのが特徴です。時代を超えてもこの点だけは変えないよう、工夫しながら曾祖母の味を守ってきました。小さい頃から祖母や母の仕込みを手伝ったり、お店に立つことが生活の一部だったので、気が付いたら作れるようになっていましたね。

城間市長 てんぴぬめーまんじゅうと聞くと、カーサの香りがする昔食べたあの時の味をふわっと思いつきます。

新城さん お客様にとっても思い出の味になっているようで、「那覇に来たらおまんじゅうを手土産に持って帰るのが定番だったよ」と思い出話をしてくれたり、中には曾祖母の話をしてくださる方もいらっしゃいます。私自身、当時の様子を知ることができ、お店を続ける楽しみの一つになっています。

城間市長 地域の方に愛されながら、家族で守り続けてきた味なんですね。数年前に店舗の一部を改装したと聞きました。

新城さん 小さいですが、先代の母の念願だったイトインスペースを設け、ゆんたくできる場所を作りました。週2回ですが、母が作りたがっていた葛餅の販売も始めました。

城間市長 お客様の反応はどうですか。

新城さん お孫さんとゆんたくしに来られるお客様や、葛餅に興味を持って来てくれる近所の高校生などがいて、嬉しく思っています。

城間市長 伝統を守りながら新しいことに挑戦し、お客様とのコミュニケーションを大切にされる姿勢は今の時代に必要なことだと感じます。また、若い世代が伝統を引き継いでくれることは本当にありがたいです。これからも、皆さんに愛される商品を作り続けてください。



那覇市長 城間 幹子



ペーチン屋3代目店主 新城佑子さん

曾祖母からの思い出の味を守って

ペーチン屋(那覇市泉崎)3代にわたり100年以上続く老舗のおまんじゅう屋さん。天妃宮で販売したことが由来で名付けられた「てんぴぬめーまんじゅう」は、はったい粉で練り上げた餡を薄い皮で包み、カーサの葉を敷き蒸して作る沖縄の伝統菓子の一つ。



Catalog Pocket
カタポケ iPhone / Android 無料 Free App

「広報なは市民の友」を
10言語で読むことができます。

ウェブでもアプリでも

市が実施する事業やイベント、防災情報などの情報を発信しています。右記QRコードからそれぞれご覧いただけます。



主な紙面

【特集】記憶をたどり、伝える平和への想い 1~3

新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせ/6月は環境月間です 4

令和3年度なはしの予算/那覇市ふるさとづくり寄附金 5

および企業版ふるさと納税の状況

なは高齢者プラン策定と介護保険料の決定/住宅セーフティネット制度 6

「協働によるまちづくり」リレー 7

情報パック 8~10